

## 2026 年度京都薬科大学入学者選抜

|    |                             |
|----|-----------------------------|
| 英語 | 学校推薦型選抜（一般公募）、<br>一般選抜前期・後期 |
|----|-----------------------------|

### 【出題の意図】

英語の問題は、総じて、基本的な語彙力と文法知識に基づいて英文を正確に読む力、書く力、そして、文の内容をコンテキストに即して正確に理解する力を問うものでした。その大半を、和訳、英訳、並び替え、穴埋め、内容の正誤判定といったスタンダードな形式で出題し、また、英文中における専門用語や、前後の文脈から意味を類推することが難しいと思われる単語には、すべて注を付しました。これらを通じて測られたのは、みなさんが、中学や高校などにおいて繰り返し学習した英文法の知識（例えば SVOC の構文や仮主語 it など）と基本的な語彙を、正確にインプットしているかどうか、またそれを正確にアウトプットできるかどうかという点です。その意味では、みなさんのこれまでの英語学習の成果を問う問題ばかりであったと言えます。

そして、すべての文章の冒頭には、その内容の一部やキーワードの意味、また会話文であれば、発話者の置かれた状況やその者の心情などを説明した日本語の文章を置きました。これは、それらの説明文を疎かにせず、本文のコンテキストや要点を正確に把握する力を測るためのものです。

出題された文章の内容について言えば、科学的な実験や歴史についての論考、名高い文人・思想家（例えば、サマセット・モームやバートランド・ラッセルなど）の書いた随筆、研究者の講演録、さらには、映画のワンシーンを題材にした日常的な会話文からも出題しました。このような多様な文章からの出題は、様々なシーンで用いられる多様な英語を理解する能力を測るとともに、文学や哲学や歴史等のいわゆる文系学問のジャンルの文章をも理解する基礎的な学識を測るためのものでした。

また、出題の数で言えば、公募推薦が二題、一般前期が三題、そして一般後期が二題というように複数の問題を出題しました。この背景には、先述の通り、多様なシーンの英語の理解を測るという狙いに加えて、限られた時間内に、自分にとって取り組みやすいものをすばやく選定し、それから難解なものへと順に取り組むという問題解決のための技能を問うという狙いもありました。

本学では、とくに医療・創薬・生命科学に関する正確な知識を幅広く身につけることになりませんが、そのためには論理的な思考が欠かせません。そして、その論理的な思考を働かせるためには、コンテキストを正確に汲みながら文章を論理的に読むこと、書くことが極めて重要になってきます。中学や高校で学ぶ「英語」を、コミュニケーションのツールであると同時に、論理的思考のツールとしても捉え、英文を論理的に読み書きするという意識を強く持って学習していただければと思います。